



梁 文潔さん
環境学研究科
社会環境学専攻 環境政策論講座
博士課程(前期)2年

提案して、行動して、人の輪を広げていく。
小型家電の回収実験

2010年1月から約3ヵ月間、名大で実施された「小型家電(こでん)回収実験」。中心となったのが梁文潔さん。中国からの留学生だ。きっかけは名古屋市と津島市で行われた「使用済み小型家電の回収モデル事業」。市民から使用済み小型家電を集め、レアメタルを回収するシステムを構築しようというものだ。所属する竹内恒夫研究室がかかわる中で梁さんは思いついた。「携帯や、ゲーム機、小型家電が一番使うのは若者。大学でやればもっと回収できる」。さっそく政策論の授業で提案し、議論し、研究室のメンバーの協力を得て動き始めた。チラシやポスターをつくって呼びかけ、学内に2ヵ所回収ボックスを設置。アンケート調査の傍ら「こでんって何?」という質問にも答えた。「小型家電は資源だと訴えて学生の環境意識を高めたかった」と梁さん。結果、総数で138個、重量で180kgの使用済み小型家電が回収された。

新鮮だったのは、自分の提案がみんなの力で実現したこと。「私の力でもできる。協力しようという気持ちがあれば人の意識や行動が変わる」。その経験を生かして、中国で環境教育やリサイクルのシステムづくりに取り組みたいと夢を描いている。



梁さんたちが、名大生にリサイクルを呼びかけるために
つくったポスター



キャンパス内に2ヵ所設置された
「回収BOX」
ステッカーが目印

